

揖保川流域委員会 第2回設立準備会議

- 第二部 -

議事録（詳録）

と き・平成13年12月11日（火）
14:00～16:00

ところ・ホテルサンガーデン姫路

< 目 次 >

- 第二部（公開審議） -

1 . 挨拶 p 1
2 . 第 1 回設立準備会議審議結果の確認 p 1
3 . 審 議（ 2 ） < 流域委員会の情報公開について > p 1
4 . 第 1 回流域委員会への要望等 p 10
5 . 閉 会 p 14

（ 第一部（非公開審議）は委員のみの審議であり、他の同席者がいないため、議事録はありません。 ）

1 . 挨拶

事務局 たいへん長らくお待たせいたしました。ただいまより揖保川流域委員会第2回設立準備会議の第二部を開会させていただきます。私は、本準備会議の事務局を担当しています姫路工事事務所調査第二課長の諸留と申します。本日の進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは開会に先立ちまして、本準備会議の藤田議長よりご挨拶をお願いいたします。

藤田議長 準備会議の議長をしております、大阪大学大学院工学研究科教授の藤田です。本日も、委員の先生方にはよろしくご検討をお願いしたいと思います。

事務局 ありがとうございます。

続きまして本日の会議資料の確認をさせていただきます。まず「議事次第」、1枚ものでございます。それから「座席表」、これも1枚ものでございます。それから会議資料としてホッチキスで綴じたもの。それから「発言にあたってのお願い」、これは水色の1枚ものでございます。最後に「設立準備会議ニュースNo.1」という冊子でございます。

以上5点、ありますでしょうか。もし、ないようでしたら、お手をあげていただければ事務局からお渡ししますので、よろしくお願いいたします。

2 . 第1回設立準備会議審議結果の確認

事務局 それでは、ないようですので、第二部の審議に入ります前に、第1回準備会議の審議結果をお手元の「設立準備会議ニュースNo.1」に基づき、簡単にご報告させていただきます。

(以下、資料説明は省略)

3 . 審議(2)<流域委員会の情報公開について>

事務局 それでは、第二部の「揖保川流域委員会の情報公開について」の審議に移っていきたいと思います。本日の会議は10名の委員の出席を得ております。会議成立条件である「3分の2以上の出席」を満足していることをご報告申し上げます。

それでは藤田議長、よろしくお願いいたします。

藤田議長 ただいま事務局から前回の流れをご紹介いただきましたので、前回ご出席の方は少し思い出していただいたんではないかと思えます。一応、揖保川流域委員会をどういうふうに立ち上げていくかという設立準備会議ですので、大きな仕事としては

「流域委員会の規約」とか「委員の構成」、特にできるだけ中立性ということから、この会議での発言、特に河川管理者の発言は必要に応じてということ、さらに「情報公開」も、できるだけ公開していくことを原則にすることにいたしました。

本日、机の配置をこのような形にさせていただきました。傍聴の方へのご発言としてお聞きいただきたいのですが、必ずしも全員の委員の顔は見にくいかと思いますが、これは、できるだけ委員の討議・意見交換がしやすいようにということです。前は八の字になっておりました、少し顔を見てのお話がしにくかったということもありますので、あえてこのような形をとらせていただきました。ご了解いただきたいと思います。

一つだけ事務局にご発言願いたいんですが、今回、2時からの非公開の会議で、実は14名、委員候補が現在すでに決まっておりますので、あと6名を選ぶということですが、その委員の名前は別にして、「6名を選びました」ということだけを一応ここで報告することですか。事務局としてはいかがですか。「6名を選びました」という報告だけをここでしていいですか。

事務局 はい。

藤田議長 われわれ、先ほど議事録にもありましたように、いろんな分野の方から委員のご推薦等を経まして、その方につきまして非公開で検討し、この会議で6名の委員候補者を決定させていただきました。ただ、氏名の公表は、先ほど事務局からもご発言がありましたが、基本的にはお願いをした方のご了解を得てからとし、また公表するという手続きをとっていきたいと思いますので、一応ここでは「6名を選びました」ということで、とめておきたいと思います。

「流域委員会の情報公開について」は、前回かなりお話ししたわけですがけれども、さらに幾つかのお話を詰めていって、本日でできれば流域委員会の準備会議を終了して、揖保川流域委員会の設立に向けてステップをあげていきたいと考えております。

第1回設立準備会議の審議結果は、先ほどお話があったとおりなんですけれども、その他、流域委員会の情報公開等につきまして、委員の先生方から「こういうことをさらに加えていけばいいのではないのでしょうか」というところを、もしよろしければ、忌憚のないご意見をお伺いしたいと思います。

たぶん最後に決めていただくことになると思いますのは、1回目の流域委員会の開催時期を調整しないとイケないということ。これは、この準備会議で大体の合意が得られればという仮定なんですけれども、そのあたりも含めて、よろしく願いたいと思います。

「情報公開」については、前回のご発言で「記者発表を重要視する」とか、いろいろございましたが、そのあたり、いかがでしょうか。

和崎委員 前回、私も実は混乱の淵に落ち込んだのかなと思っておりまして、この「情報公開」と、いかに流域の皆さま方とともに委員会を運営していくか、動かしていくかという手法が、コンフューズしていたんじゃないかなという気がしております。あのあと考えておりまして、情報公開については、スタンスとして基本的に何をしなくちゃいけないのかということを押さえていく。もう一つは、情報公開をすることによって、どうやって地域の人たちと協働できるのか。自分としては、きょうはそういうことを切り分けて考えていきたいなと思っておりますので、またご指導のほうをよろしく願います。

藤田議長 情報公開は当然ながらやっていこうというふうに、ここで決めたわけですけども、和崎委員からは、情報公開の手法と、公開をすることによる地域住民への話しかけ、それから地域住民からの反応、あるいは川に関心を持っていただいて、いかに活動を活発にするかということも含めてということですね。

和崎委員 おそらく地域住民の方々は、揖保川（河川）についての興味はお持ちで、以前から熱意をもって取り組んでおられると思うんです。このような方々とともに、この委員会が考え、実行に移していくという協働の歩調がとれれば、よい形での成果が生まれるのではないかなと感じております。

藤田議長 何かほかにございませんでしょうか。

いまのご意見からいけば、ホームページも含めて、方法論としては前回、いろいろ検討したわけですけど、委員会としてできる方法論はこれぐらいしかないというふうにお考えですか。

それに対して、住民の側がいかに積極的にこの流域委員会に関心を持っていただくかというのは、また別の問題かなという気がするんですが、何かお知恵等がございましたら、「こうしたら、もしかすると揖保川に関心を持っていただけるんじゃないか」というご発言も含めて、何かございませんでしょうか。

森本委員 私たちが揖保川のことをいろいろと考えるのは、現在はもちろんでありますが、この揖保川が将来にわたって長く、昔のような清い揖保川であり、そこにたくさんの生物が棲んでおり、自然が楽しく守られるということだと思っております。そういう意味から、行政の長とか、いろんなところへ公開することも大事ですけども、いまから

大きくなっていく小学生、中学生たちに、いかにわかりやすく“揖保川を大事にしようじゃないか”“揖保川の生物を見守り育てていこうじゃないか”と教えることも大事なことだと思いますので、情報公開の一つの重要な柱として、小・中学生、若い子たちにどのように情報公開していくかということについて、私たち、いろいろ研究していったらいいんじゃないかと思いますので、よろしくをお願いします。

藤田議長 若い人への話かけは大事なことだと思いますので、貴重なご意見であって、非常にありがたいと思いますが、例えば、森本委員のご経験から、どういうふうに話しかけると反応がかえってくるのか、何か虎の巻のようなものはございますか。

森本委員 私は学校におりましたので、いまでも小学校から「揖保川の話をしてえな」という依頼があります。三世代交流みたいなものもあるんですが、先般も「昔、揖保川には筏が流れとったんだぞ。高瀬舟が通ったこともあったし、私は昔、ヤナをやったんだぞ。そのときには魚がいろいろいたんだ」ということ。いま、その魚は私たちもあまり見ておりませんが、そういう機会をもって子供たちに触れ合っているんです。もちろん私たちの学校だけですけどね。

そういうふうに、やっぱり大人が子供に話ができる、「ぼくが子供のときになあ」「おじいちゃんが子供のときになあ」という話ができるような、そういうことができたらいいいんじゃないかなと思います。

藤田議長 ありがとうございます。

そのほか、何かございませんか。

中元委員 いま「情報公開」は、行政が持っている情報を市民に公開していく、その情報に対して行政は説明責任を持っている、そういうのが基本なんですね。今度の場合、そういうことはあたりまえのことで、やらないといけないわけで、前回の会議でもそのことについてはみんな合意しているわけですから、その面での「情報公開」は、ある意味では常識的な範囲で終わっているんじゃないかと思うんですね。

「情報」は、そういうものだけではなく、いま揖保川についてはいろんな情報がありますよね。森本先生がおっしゃったような歴史的なこと、文化的なこと、産業のこと、漁業のこと、もちろん水生生物、植物、地質、そんなものを含めた情報がいっぱいあるわけですね。単に川の情報ではなく、川の周辺の情報みたいなものは、われわれを含めて、みんな知らないし、わからない。そういうものをきちんと整理をして伝えていくことも、情報公開の重要なポイントじゃないかと思うんですね。

それを誰がするかというのは、なかなか難しい話になるわけですが、せっかくこういう会議ができて、いろんな専門家もいらっしゃるし、もちろん外部の人とのつながり、人脈を持っておられる方もずいぶんいらっしゃるわけですから、そういう知恵を動員して、揖保川の持っている情報を逆にみんなに公開していくというか、そういうやり方が具体的にあれば、もっとおもしろくなってくるんじゃないか。

例えば、1回目のときにも申し上げたんですけども、この「ニュース」の中で「こんなことをやりましたよ。誰々がメンバーです」ということは、もちろん大事なことで、公開していかなければならないんですけども、これだけを「情報公開」というだけじゃちょっとさびしいかなと思います。

いまいったようないろんな幅広い情報を、狭いスペースですけども、ここに詰め込んで出していけば、このニュースレターそのものにも付加価値が出てきておもしろいし、周辺の人たちも知識が得られる場になるんじゃないかな。そういう方策を考えたら、おもしろいかなという気がしております。

藤田議長 ありがとうございます。

非常に貴重なご意見、ご提案で、私としても、楽しいニュースレターなりホームページにしていくことも、ある意味で住民の方が揖保川に関心を持っていただける大きなアプローチじゃないかなと思います。

非常に的を得たご発言ですから、そのあとをフォローしてくださいとはいいません。全く違う切り口からでもけっこうですので、「情報公開」は、先ほどのお話からいくと一応方法論としては、われわれ、これぐらいを考えたので、それをいかに伝え、活用するかというところのご意見、あるいは「こんなことをしたらおもしろかった」といったことがございましたら、森本委員の意見も一つの情報公開で、何らかの形で、それをどこかでメモすれば、おもしろいレターになるんじゃないかと思います。

ほかに何かございませんか。

井下田委員 前回はお休みをしましたので、これから申し上げますことはややトンチンカンで的を得ていない部分も出てくるかなと思いますけれども、先ほどからのお話を伺いながら3点にわたって申し上げてみたいと思います。

すでに前回の分厚い議事録を読ませていただいて、この準備会議が情報公開をととても大事にしながら動いていることをあらためて確認できました。いうならば情報公開の時代にあって、コミュニケーション型行政を目指したいという国がらみの動きもあって、この準

備会議がスタートしたわけで、それを受けて委員の皆さん方が多面多岐にわたって、すでにあれこれご検討をされてますから、以下トンチンカンなお話が出てくるかなと思いますけれども、私は、一つにはせっきくの情報公開の中身を、揖保川の地域社会に組み込んでみるできないかなと思うんです。

ちょっと抽象的な言い方ですから、もう少々具体的なことをいえば、もちろん毎回は無理ですけども、これから何回かは、準備会議あらため次回以降は流域委員会になるんですが、その委員会を姫路のこのお部屋とするのではなくて、揖保川は南北70kmに近い長い川ですから、その全地域ではできませんけども、この地域のどこかの公民館で開いてみると、土地の人たちがさらに集まってこられるかもわかりませんね。

私どもお互いがこの場だけで、今後もこのような集まりを持つことは、ご承知のように、今日は中央集権ではなくて地方分権の時代だというけれども、このお部屋で開くかぎりは、いうならばミニ中央集権なんです。揖保川のあちこちに出向いて行って、この準備会議あらため委員会がもてますと、場合によっては地方分権がもっと土地に根づくかもわかりませんね。あえていえば、地方分権をさらに域内分権にかえてみる。

繰り返しになりますが、このような集まりは、もちろん毎回は無理です。準備の都合もありますからこのようなお部屋でも仕方ありませんけども、気持ちの上では揖保川の現場に出向いていくことを私どもお互いの気持ちの中に入れてみたい。これが第1点です。

そのこととかかわりがあるんですけども、もちろん私などは揖保川全流域のあれこれの問題について熟知できているわけではありませんので、これも毎回は無理ですから1～2回でけっこうですけども、マイクロバスあたりを仕立てていただいて、現場、現地に学んでみる。そして、ご当地にこの委員のメンバーにプラス、次回以降、何人かの新しいメンバーが加わっていただいて、その加わってこられた新しいメンバーや、すでに私どもの仲間になっておられます準備会議のメンバーは、それぞれ専門の世界をお持ちですから、場合によっては揖保川とかかわる専門的なお話のあれこれをバスの中でもコメントしていただければ、とてもありがたいです。あるいは、その会場が地元の公民館になるのか、小学校になるのか、体育館になるのかは定かではありませんけども、地元の方にも語り伝えていただければ、もっとよいかと思いますね。そういうお集まりを現地あるいは現場で持っていただけないかなというのが第2点です。

いま森本先生が元校長先生の立場で、先ほどのお話が出てきましたけれども、すでに学校の現場では来年4月から、ご承知のように、完全週5日制が始まるものですから、それ

を先取りする形で、新しいカリキュラムのもとに、小学校、中学校、高校、あるいは兵庫県
のあちこちで総合学習が始まるんですね。この総合学習の格好のテーマは揖保川とかか
わる部分などがクローズアップされてくるにちがいありません。おそらく揖保川の流域あ
るいはその周辺の小学校、中学校の幾つかの教育実践の中にも、すでに蓄積、積み上げが
幾つかあろうかと思えますね。

したがって、場合によっては、いまの部分を中心に詰めるような形で、それぞれ地域の
匠、地域の自然、あるいは災害に学ぶ場合もありますけれども、さまざまな観点から、い
まの段階でいえば、主として学校をキーステーションにして取り組んでいってみること、
それが切り口の一つとしてよいかもわかりませんね。

以上、気がついたものを3点にわたって、とりあえず申し上げます。

藤田議長 ありがとうございます。

これもまた貴重なご意見で、特に2点目のマイクロバスのことは、議長の私は、たぶん
揖保川は橋を渡っただけで、一度、上から下まで縦に見せていただきたいなと思ってお
りますから、ぜひ河川管理者にも要望してみたい。逆に地元の委員の方々はよくご存じだ
と思えますが、新たな発見をしていただけるということ。

もう1点、この意見にも私は賛成で、実際に前回の審議で決めたわけですが、場合
によってはメンバー以外の方のご出席もいただけるというのは、まさにそういうことで、
例えば上流域で、そのあたりの歴史や川に詳しい人にお話をお伺いするのも、この委員会
の趣旨に沿った開催方法ではないかなと思いますので、それも逐次、できれば個人的には
桜の名所があれば春先にやってみたいなという気がします。

そのほか何かございませんでしょうか。

栃本委員 「情報公開」のことで、委員の発言、委員会で決まったことを情報
として発信されることはいいんですけど、私は、一方通行のような気がしますし、きょう
傍聴に来られている方は、川そのもの、揖保川そのものに関心をお持ちの方だと思うん
ですね。

いま議長さんから「現場を見たことがない」というお話がありましたけれど、傍聴の
方の中には十分ご存じで、この川がどうなっていくのかということに強い関心を持って参
加されている方があると思うので、そちらのほうの意見の集約というか、むろん前回こ
この発言もありましたけど、時間的な制約もありますし、そういったものはアンケート等
で集約して、伝えていただければ、逆にわれわれもたいへん参考になるんじゃないかと思

います。

藤田議長 ありがとうございます。

栃本委員のご発言なんですけど、たぶん流域委員会発足後の重要な役割の一つに、市民の意見を汲み上げていくということで、それは当然ながらやりとりをしていく。もちろんその中に河川管理者もおられるという形で、一種のキャッチボールはしていかないといけないと思いますので、今後ともいろんな局面が出てくるんじゃないかと思いますね。

その中で傍聴の方のご意見も、これは前回もお伺いしましたけれども、最終、お伺いする機会も設けておりますので、そこでの直接の意見、あるいはネットや文書での意見もどこかで集約してくる。特に事務局も中立ですので、大いに活用していただければいいんじゃないかと思います。

そのほかに何かございませんでしょうか。

きょうも「情報公開」ということであれば、先ほどの中元委員のお話のように、和崎委員のお話でも、ある種一方通行ですけども、手段としてはこれでいいだろうということ。いまのお話ですと、もっと突っ込んで、この流域委員会発足後は、われわれはどうかかわっていくか、どう運営していくかという話にも入っているわけですけども、それとの関連で、例えば「流域委員会ではこうしたらいいんじゃないか」というお話がございましたら、どうぞご遠慮なくご発言ください。

丸山委員 意見としましては、この中にほぼ網羅されていると思うんですけども、基本としましては、住民と一体で揖保川、その他の川も当然ですけども、「川をきれいにするんだ、よくするんだ」という、この1点に尽きると思うんです。

ですから、中身もこれから順次出てくるとは思いますけども、「基本はこれだ。こちらに向かっていくんだ」ということじゃないかと思うんです。

藤田議長 ありがとうございます。

ちょっとつかぬことをお伺いしますが、姫路市の水道の一部は、やはり揖保川から取水されているわけですか。

丸山委員 はい。

藤田議長 姫路であれば、下流で取水されているということですか。

丸山委員 姫路市は、下流のほうでも、御津町、相生市、揖保川町の水道からも一部買っておりますけども、姫路市独自では、中流になるんですかね、龍野実業高の前のほうから取水させてもらって、姫路市へ送っているということになっております。

藤田議長 そうすると、水質については、仕事上も関心があるということですね。

丸山委員 そうなんです。水質・水量については大いに関心がございます。

藤田議長 わかりました。ありがとうございました。

何かそのほかにご発言、ございませんでしょうか。

もし、特段ご意見がないようでしたら、先ほどの各委員からのご発言も議事録にきちっととっていただいておりますし、そのまますトアップすれば、まさに流域委員会の情報公開というよりも、むしろ住民との対話、また皆さんにどう関心を持っていただくか、われわれ自身も揖保川をよりよくするにはどうしていけばいいのか、そういうことがメモとしてあがってきていると思いますので、それらを今後の会議の運営のために活用していきたいと思います。

きょうは、なんとなく淡々と、前回の審議の延長の部分を取り戻すかのように、早く終わってしまいそうなので申しわけないんですが、何か忘れていたら教えてください。

事務局 事務局からの提案なんですけども、公表する手段として、この準備会議の審議経過について、速報、議事録の概要、議事録の詳録という形で公表しております。これについては、各委員、皆さま方にご確認をしていただいた上で、ホームページ、ニュースレター、記者発表という形で発表しているわけですが、速報については、会議後早めに公表するほうが効果的ではないかということもありまして、その内容確認については議長一任とさせていただけないかなということなんです。

藤田議長 いかがでしょうか。（異議なし） 結構です。まとめても1ページぐらいですので、責任上、私がきちんとチェックをしていきたいと思います。

そうすると、ある意味、和崎委員のお申し出の分がよりスムーズにいくことになるだろうと思います。それでいくことにしたいと思います。

そうしますと、「情報公開」はかなり踏み込んで、流域委員会発足後の運営の仕方等についても意見交換をしていったわけですが、一つだけ、結果として重要なことだと思うんですが、これは現在、第2回設立準備会議になっております。あとはメンバーの皆さま方に、先ほどの非公開でお願いすることにした委員候補者を加えて、もちろんご本人の了承が得られれば委員になるということが前提ですが、20名で流域委員会を発足することをお認めいただくかどうか、それをご確認したいと思いますんですが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

藤田議長 では、一応全員のご賛同を得ましたので、先ほどの6名の委員を加えて、次回からは流域委員会ということでご審議等をお願いしたいと思います。

4 . 第 1 回流域委員会への要望等

藤田議長 今度は、開催の時期、それから流域委員会がスタートする、第1回のときに、もちろん顔見せということもあるんですが、顔見せのためだけに集まってもむだなことですので、1回目の流域委員会から「どういう形で運営していくか」というあたりを、事務局または私のほうにご意見をいただいて、事務局あるいは河川管理者と話し合いながら第1回から充実した委員会にしていきたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただければと思いますが、何かご意見はございませんか。

いつも議長がよくしゃべるから申しわけないんですけど、私は個人的には、流域を一度説明してほしいなと思ってます。概要とか、水質・水量がどうかとか、周辺の感じはどうかとか、あとは井下田委員のおっしゃったように、できれば、春のいい季節になれば、2回ぐらいになるかもわかりませんが、流域を上の方でも真ん中でもけっこうです、中流の龍野ぐらいでやるとか、そういうことも含めて現地へ行くことも試みたらいかかと思いますが、個人的には1回目は「揖保川とはどんなものか」。

一応「委員に就任をしてください」と頼まれたとき、とりあえずはパンフレットのほとんどは、しかし、これは姫路工事事務所から出ているパンフレットを、お仕着せの内容ですが（笑い）、読ませていただきましたが、もうちょっと突っ込んだお話がお伺いできれば、揖保川に対する認識は深まってくるのではないかと考えておりますが、それは、私の個人的な希望ですので、そのほか、何かございませんでしょうか。

開催時期もそうですが、どういう形で運営をしていくかということも大事ですし、もう1点は「こういう資料もほしい」ということも含めまして、それも一気にあれもこれもというはたいへんでしょうが、1回目はとりあえず全体で、だけど、こういう資料がほしいとか、そういうご意見がございましたら。

和崎委員は揖保川をよくご存じだと思うんですが、いかがですか。「これがあると意外におもしろいよ」とか。

和崎委員 どちらかというイベント屋みたいなことなんですが、地域の方々には「こうしたら揖保川がよくなるよ。揖保川流域がよくなるよ」というアイデアはいろいろお持ちだろうと思うんですよ。できたら、そういうアイデアをお伺いしながらつない

でいく。それぞれが独立しているわけじゃなくて、揖保川というキーワードでつながっているはずなんで、それをこの流域委員会で形にしていくと、情報公開もできるし、一緒に協働もできるし、揖保川も地域の皆さんと一緒によくできるし、そういう流れが生まれるのかなということ。

ちょっと長くなりますけど、1997年に“わんぱくちびっこ情報団”というのを兵庫県と共同でやりました。旧西播磨から40校、49グループ、1200人の子供たちが集まって、自分たちの校区のいいところをデジカメで取材をして、ホームページにしたんです。当時まだインターネットはかかりの時分で、そんなにたくさんの方がつくれるということはなかったんですけど、自由課題だったので、期せずして揖保川の流域は、テーマはみんな「川」でしたね。ものすごいコンテンツが出てくるんですね。それをあとで先生にお伺いすると、「もちろん従来から研究しているテーマもあるんだけど、そのつどそのつど子供たちが地域の人たちに聞き取りをして、自分たちの地域のアイデンティティを発掘するんだ。そのためには『川』というテーマが非常にいい」というお話でした。

それで全部、上流から下流までをずっと眺めてみますと、統一する一つのポリシーみたいなものが子供たちの作品に感じられるように思いました。正直いって、都会のぺたぺた貼ったような - - こんなことをいったらいけないな - - コンテンツではなくて、ほんとうに地域に根ざした思いがあるのかなという感じがして、感動した覚えがあります。

今回の委員を引き受けさせていただくにあたって、そういう思い出があったものからお受けさせていただいたようなことです。

話は戻りますけれども、流域の方々の思いには熱いものがあると思いますので、それをお伺いしながら私たちが一緒に考えて、具体的な形にしていけるお手伝いできればなというふうに思っています。

藤田議長 ありがとうございます。

いまの和崎委員のご発言の中で、これもひょっとした思いつきで申しわけないんですが、井下田委員のご発言と期せずして同じような教育プログラム、そのあたりは小学生や中学生のクラブ活動になるのかもわかりませんが、そういうことを聞かせていただくことも、われわれにとっても勉強になるなという気がしますね。それを今後、どこでどう取り入れていくかということについても、また何らかの形で実現させていきたいと思えます。

そのほかに何かございませんでしょうか。

井下田委員 先ほどは少々長めのコメントをしましたので、これからは短く

申し上げてみたいと思います。せっかく次回以降、委員会がスタートするわけですから、しかも、スタートするこの委員会は、行政にとって、揖保川の管理と関連して今後20～30年という長いスパンを射程距離内において、最終的にはあれこれプログラムなり計画をお立てになるわけですが、行政としては、これまでも、あるいはいま、今後も、こういう点が困りそうだと切実に思っておられる部分がたくさんおありだろうと思うんです。

その幾つかは委員会の第1回の段階で、もちろん時間をかける必要はありませんけども、できたら20～30分。先ほどの議長さんから一方的な云々というお話もありましたけども、長い間の蓄積の成果の上に行政は行政で資料をつくっておられるわけですから、いまは準備会議ですが、あらため委員会とも、行政の皆さんは距離をおいた中立的な立場、いうならば、ややアスキーゼ（禁欲的）な立場で対応しようとされていることに、私は敬意を表したいと思いますけども、同時に地域の人たちも、揖保川とさまざまにかかわった思いをどっさりお持ちなんです。同様に行政の皆さんは行政の皆さんで、さまざまな願いや思い、あるいは忸怩たる部分も時にはお持ちかと思しますので、差し支えない範囲で、もちろんここは公開の場ですから、一般に公開できないという部分はけっこうですけども、公開でき得る範囲内で、行政は行政の立場で、次回以降の委員会にぶつけていただけるとありがたいと思いますね。

その行政の問題提起を私どもなりに、専門がそれぞれ違いますから、すべてコミットできるような、あるいは対話できないかもわかりませんが、とりあえずはせっかく集まってきて、先ほどのお話のように、いくらなんでも最初から遠足は無理なんで（笑い）、次回はやっぱりここになるでしょうから、そういう集まりを企画してもらえると、さしあたりはいいんじゃないでしょうかね。

藤田議長 ありがとうございます。

「きょうは四時に終わってください」という厳命なんです。あと5分しかありませんが、浅見さん、きょうはご発言がなかったんですが、何かございませんでしょうか。

浅見委員 次回以降の運営の仕方と先ほどの情報公開の部分に少しかかわる点ですが、いままでお話を聞いておまして、得られた情報、行政が説明責任を持っているといった、固い、ここで討議した内容以外に、それをいかに伝えていくかという点が重要かなと思いました。そうしますと、流域委員会が始まりますと、区切り区切りにそれまで討議した内容を事務局に発表をお任せするだけではなくて、いかにそれを協同の体制にもっていくかということをもとめる、あるいは討議する時間をとっていただけたいかなとい

うふうに感じております。

藤田議長 ありがとうございます。

きょう、ご発言なかった委員の方々、何かございませんか。

正田委員 きょうは静かにしておったんですが、別に議長さんの正面に座らされたからというわけでもないんです。私としては、たいへんありがたいというか、好ましいというか、そういう方向に議論を進めていただきまして、感謝のかぎり、もう何も申し上げることはないということでございます。

藤田議長 ありがとうございます。

よろしいですか。いつでも発言の機会がありますが、一言。

増田委員 私、生まれてからずっと揖保川の川下で暮らしております。74年になります。小さいときからの思い出もたくさんございますけれども、特に強烈に思っておりますのは、この水は誰のものかということ。そういう疑問を少年時代からずっと持っております。どれくらい工業用水にとられているのか。あるいは流域だけでないところへどれくらい水が行っているのか。相生市は流域ではないですからね。そういう疑問を持ちながら今日までまいっております。

しかしながら、こうした流域委員会ができて、これからの揖保川のますますの浄化、そして治水・利水だけでなく環境にも大きく踏み出されることに、ほんとうに感激しております。ちょっとだけ意見を述べさせていただきました。

藤田議長 ありがとうございます。

74年の万感こもるといえるか、だけど、やっと流域委員会が発足しますので、今後はそのご経験でいろいろご発言をお願いしたいと思います。

では、四時が一応のリミットでございますので、後半の意見交換「情報公開について」は突っ込んだ形での意見をたくさんいただきました。それを本来ですと事務局を経由して河川管理者にお伝えするということですが、それについては詳細な議事録を作成することになっておりますので、それをうまく活用して、事務局にも河川管理者にも、われわれの委員会の意見をお伝えしていきたいと思っております。

最後になりましたが、先ほど来、ご確認しておりますけれども、委員の追加の候補者につきましても、ご本人の承諾を得た後、正式のメンバーとして参加していただくということで、そのメンバーの方々を加えまして、次回以降、流域委員会として発足していきたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願いしたいと思います。

一般傍聴者の方から何かご意見はございませんでしょうか。もしございましたら、できるだけ手短にお願いいたします。

傍聴者 一宮町の田淵といいます。きょうは初めて、こういうことがあるということに参加させていただきました。1回目はアンテナが低くて存じなかったわけですが、きょう、傍聴させていただいて感じているのは、この中に「森」「森林」という言葉が出てこなかったということで、たいへん残念でございます。

ぼくら、山奥に住んでおりまして、きれいな水を下流へ供給するという大きな役目をもって頑張っておりますが、委員の皆さん方、たいへん学識の豊富な方ばかりでございますので、ここの肩書だけではわからないんですが、ここでは「森」も出ないし、その専門家もあがってない。植物生態というのは広いので、そういう意味では触れられるかもわかりませんが、その点、たいへん残念に思いますので、委員会の構成がどうなっているのか、新しい委員さんが選ばれているということですが、その点、たいへん残念に思います。

以上でございます。

藤田議長 本来は聞き置くだけですが、上流域からの委員も次回の流域委員会発足後には出席をしていただきますし、現実には、どうなんでしょう、森林そのものを専門にしておられる方はだんだんと減ってきてはおりますけども、地域で森を見ながら、あるいはそれを観察しながら、揖保川も一緒に見ておられる方がたぶん次回の流域委員会にはご出席いただけると思いますので、それはそれでご期待していただきたいと思います。

そのほかに何かございますでしょうか。

5 . 閉 会

藤田議長 それでは本日の第2回設立準備会議を終わらせていただきます。

なお、第1回の流域委員会に先立ちまして、この設立準備会議は一応解散となります。一気に解散して、すぐ流域委員会が立ち上がるという、なんか形式的なお話ですが、そのむねご了解いただきたいと思います。

それでは、本日はどうも長時間ありがとうございました。

事務局 どうもありがとうございました。

これで第二部の「流域委員会の情報公開について」の審議を終わらせていただきたいと思ひます。本日は長時間、どうもありがとうございました。